

旧保健所跡地複合施設整備構想・整備計画の検討状況について（概要版）

1 はじめに

旧板橋区保健所跡地については、本庁舎周辺における課題等を踏まえ、令和6年2月に「旧板橋区保健所跡地 活用方針」を、令和7年2月には「旧板橋区保健所跡地整備構想・整備計画 中間のまとめ」を公表した。これまでの検討内容を踏まえ、新たに整備する複合施設の設計に向けた諸要件の明確化に向けて、令和7年度より「旧保健所跡地複合施設整備構想・整備計画」の策定に向けて検討を進めている。本件について、現在の検討状況を報告する。

これまでの検討経過

「旧板橋区保健所跡地整備構想・整備計画 中間のまとめ」(令和7年2月)より 主な内容

1. 本庁舎周辺で解決していくべき課題

- 利用者の利便性を考慮した相談機能(板橋福祉課含む)の適正配置
- 「板橋区立障がい者総合福祉センター(仮称)の設置を求める陳情」を踏まえた対応
- 男女平等推進センターの分散配置解消と機能充実
- **ホールや会議室などの貸館機能の継続的な提供と機能充実**
- **非常時にも柔軟かつ機動的に対応可能な多目的スペースの確保**
- **本庁舎北館を改修する際の行政サービスの継続的な提供**

グリーンホールに関する検討の方向性

- 健康長寿医療センター・板橋キャンパス跡地の高齢・障がい施設との連携の視点をもって、高齢・障がい・福祉の総合的・包括的支援拠点の整備を検討する。
- 障がい者福祉センター機能、男女平等推進センター機能、板橋福祉課等の整備を中心に、その他の機能についても適宜検討する。



2 板橋区の文化施設の現状



グリーンホール

1階ホール利用率

85.6%

2階ホール利用率

79.1%

(過去3年平均)

【利用目的】

文化活動、式典、総会、懇親会、研修、発表会など

多様な用途で利用されている。

3 区民意向の把握

(1) 令和6年度文化芸術に関する意識意向調査

	区民	区内中学生	区外住民
調査対象	18歳以上 2,000人	区内中学2年生 788人	都内他区18歳以上 600人
調査期間	令和6年8月23日～ 9月20日	令和6年9月2日～ 9月27日	令和6年9月2日～ 9月5日
回収結果	有効回収数:729票	有効回収数:712票	有効回収数:600票

(2) 区民説明会・アンケート



各検討段階において、区民説明会やアンケートを実施し、施設整備に向けた意見を聴取している。

	区民説明会	アンケート
実施回数	4回(同内容を2回ずつ実施)	3回
延べ人数	102人	693人

4 新施設の整備に向けた現状及び区民意向の整理

(1) 利用状況及び施設関係者の主な意見より

- グリーンホールは、防音性能が十分でないことによる一部楽器に利用制限があることに対して、利用者からは改善を求める声がある。
- ホワイエやトイレなど、ホール周辺環境についても改善や充実を求める声がある。
- ユニバーサルデザインへの対応が不足している点や、貸館機能と行政窓口のフロア配置などから、利用者の動線に課題を抱えている。

(2) 文化芸術に関する意識意向調査からの分析

- 区民及び区内中学生の1年間の文化芸術鑑賞率及び文化芸術活動の実施率は、区外住民を上回っており、文化芸術に関心が高い傾向があると考えられる。このことから、引き続き区民の鑑賞活動、文化芸術活動の場を提供し、活動を支援していくことが、更なる区の文化芸術振興につながるものと考えられる。
- 区などに実施してほしい公演等として、「身近な場所での公演等」が上位であることから、区内のアクセス性の高い場所での公演等の実施が一定その要求を満たすものと考えられる。
- 文化施設が利用されるために重要なこととして、「誰もが気軽にくつろげる空間」が上位、文化施設への要求として、「館内環境の充実」「休憩・飲食ができる空間」「レストラン等の飲食店」が上位となっており、新たな文化施設を整備するにあたっては、これらの視点を取り入れた検討が必要である。

(3) 区民説明会・アンケートにおける主な意見

- ハード面では、音響の良いホールや、新しい音響機能を備えた練習室の設置を求める意見が見られた。
- 利用者が必要に応じて利用できる駐車場の整備を求める意見もある。
- イベント開催が可能な多目的スペースや、多世代が自然に交流できるエリアやスペースを求める声も多く見られ、フレキシブルな施設構成が求められている。
- ソフト面では、区民が使いやすい環境を整備するとともに、日常的に足を運びやすく、地域コミュニティの活性化につながる施設運営を期待する声が見られた。
- 本計画に対しては、可能な限り早期の施設整備を求める声に加えて、交通の便が良く、区民が集まりやすい場所であることから、区民の意見要望を取り入れた施設整備を求める声が見られた。

5 新施設に求められる機能

ホール・会議室等の貸館
機能の継続と充実



防音性の高いホール
(使用できる楽器、活動の拡充)



施設利用者が利用しやすい
動線と諸室配置



(1) 新施設のコンセプト

立地を生かし「日常的なにぎわいや交流を創出する拠点づくり」

地域の文化・交流ニーズへの対応

ホール機能を中心に地域住民や団体等が日常的に利用できる施設を整備し、地域住民の交流促進、文化芸術振興・多文化共生を実現する。

地域経済と社会の活性化

駅近という利便性を生かし、イベントや会議などを通じて、地域経済の活性化やコミュニティの連携強化の促進を図る。また、本庁舎と近接していることを活かし、運動イベントの開催や、住民サービスの向上を実現する。

機能の充実化と災害対応力の強化

築50年を超えるグリーンホール設備の老朽化に対応するため、ホールや会議室機能の充実化などを図る。また、災害時の活用も見据えた整備を施し、災害対応力の強化を図る。

(2) 整備する諸室・機能

諸室名	整備の方向性
多目的ホール 	- 可動席を備え、音楽活動や講演会など多様な用途に対応できるホールを整備し、地域文化の発信拠点としての機能を高める。 - 来館者が気軽に立ち寄れるよう、施設内でもアクセスしやすい位置に配置するなどの動線計画を検討する。 - ホワイエや控室、倉庫などのバックヤードを適切に整備し、出演者・主催者・観客それぞれの動線に配慮した機能的なレイアウトとする。 - ホールが使用されていない時間帯には、ホワイエやラウンジスペースを開放するなど、地域住民が気軽に利用できる場としての活用も検討し、日常的なにぎわいを創出する。
サブホール 	- 異なる用途に対応できる2室を整備する。 - 一方のサブホールは、式典、講演会、カンファレンス等での利用が可能なホールの整備を検討し、もう一方のサブホールは、音楽活動の練習や、多目的ホールで開催する活動のリハーサルなどにも対応できるホールの整備を検討する。 - それぞれのサブホールに特徴を持たせつつ、フレキシブルな空間構成を検討し、多様な活動や利用形態に幅広く対応できる汎用性を確保する。 - 災害時等には、応援職員や関係機関の執務・滞在スペースとして活用することを視野に入れ、非常時の柔軟な運用が可能な設計を検討する。
会議室 	- 会議室全体として、大きさの異なる部屋を複数計画する。 - 施設全体に明るさと広がりをもたらし、利用状況が見えやすくなることで透明性や安心感が高まり、利用や交流の促進を目的とした会議室の整備を検討する。 - 災害時等には、応援職員や関係機関の執務・滞在スペースとして活用することを視野に入れ、非常時の柔軟な運用が可能な設計を検討する。
ラウンジスペース 	- ラウンジスペースは、軽飲食や会話を楽しみながら自由にくつろげる交流スペースとなる空間であるとともに、多世代が身近に文化・芸術に触れることができるようなギャラリーやイベントを開催できる空間を検討する。 - 災害時等には、帰宅困難者の一時滞在施設としての活用も視野に検討する。
執務室	- 本庁舎及び周辺の公共施設再編に伴う課題への対応から、行政機能を配置することとし、執務室を整備する。配置する行政機能については、新施設のコンセプトや整備するホール等との親和性や相乗効果を生み出すことが可能な行政セクションを検討する。 - 本庁舎北館を改修する際の行政サービスの継続的な提供の観点から、執務室を整備する。整備にあたっては、職員の働きやすさに寄与する計画を今後検討する。
駐車場・駐輪場	施設運用に必要なサイズの車両・台数の整備を行う。

(3) ゾーニングイメージ



7 今後のスケジュール

(1) スケジュール(案)

令和7年12月 検討状況について(本資料) 区民環境委員会報告
 令和8年2月 整備構想・整備計画 原案 区民環境委員会報告
 令和8年度～令和9年度 基本設計・実施設計
 令和10年度～ 施設整備工事(3年程度予定)

(2) 原案までの検討項目

・管理運営の考え方	・施設整備の考え方	・施設整備計画
・規模算定	・基本機能の構成	・法令条件
・設備計画	・その他	